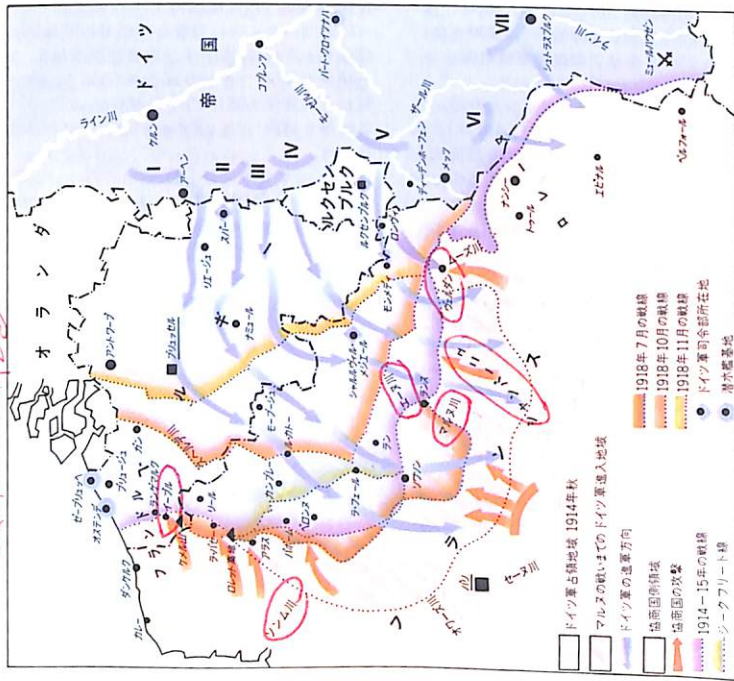


東部戦線 1914-17年



西部戦線 1914-18年

西部戦線(1914-17)

ドイツの戦争計画は、2正面戦争の指導に関する前参謀総長シュリーフェン(1833-1913)の覚書(シュリーフェン計画)1905/06)にさかのぼる。東部戦線で防衛戦争を行い、強力なく右翼軍をもってフランス軍を包囲することにより西部戦線で迅速な決着をつけること。アルザス・ロレーヌへのフランス軍の突撃を予期して、同計画は(小)モルトケ(1848-1916)により修正(右翼軍の縮小)される。ベルギー、イギリスの参戦によって軍事的危険(ドイツ軍80個師団に対し、連合国104個師団)が生まれる。

1914年の機動戦 ジョッフル将軍指揮下のフランス軍5軍団とフレンチ元帥指揮下のイギリス派遣軍が、ル・カトーに突撃。フランスは攻勢に出る。

1914.8. ミュールハウゼンの戦い フランス軍の攻撃の失敗。

1914.8. ロレーヌでの戦い。フランス南方軍は国境から撃退される。

1914.8.18. モルトケの率いるドイツ7個軍団の進撃とともに、ドイツ右翼軍の攻撃開始。

1914.9.6-9. マルヌの戦い フランス軍の反撃によりドイツ軍は前進をばまれる。分断されたドイツ軍はエヌ川まで撤退する。

1914.9.14. ファルケンハイム将軍(1861-1922)がドイツ参謀総長となる。

1914.10/11. 英仏軍による包囲の試みは失敗。機動戦は陣地戦に転化する。

1915.2/3. シャンパーニュでの冬季戦、フランス軍の戦線突破の試み挫折。

1915.4/5. イープルの戦い(毒ガスの使用)。ドイツ軍の陣地獲得はわずか。

1915.9-11. シャンパーニュでの秋季戦。戦局を決するまでに至らなかった。

1916.2.21-7.21. ヴェルダンでの戦い(ヴェルダンの地獄)。ドイツ軍は初戦に勝つが、大損害により戦局を中止する。

1916.6.24-11.26. ソムの戦い 英仏軍の戦線突破の試みは失敗。

1916.10.24-12.16. フランス軍によるヴェルダン要塞の奪回 独・仏双方で軍指導部が交代する。ヒンデンブルクとルーデンドルフがドイツ最高統帥部の長となり(8月)、フランスの総司令官はジョッフルからニヴェル将軍に交代する(11月)。

1917.2/3. ドイツ軍はアラス・ソワソン間のジークフリート要塞線に退却。アラスでの英軍の攻撃、エヌとシャンパーニュでの仏軍の攻撃は、いずれも失敗する(4/

5月)。
 1917.5. 兵士暴動(→p.413)の後、ニヴェル将軍はベタン将軍と交代。フランドルでは英軍の戦線突破の試みが失敗する(5-12月)。

東部戦線(1914-17)

ロシア軍は、東プロイセンに侵入した後、ヒンデンブルク元帥(1847-1934)とルーデンドルフの率いるドイツ軍の反撃にあって敗れる。

1914.8.26-30. タンネンベルクの戦い ロシア軍、東プロイセンを撤退する。

1914.9.6-15. マズール湖畔の戦い ロシア軍、東プロイセンを撤退する。

ガリツィアでは、オーストリア・ハンガリーの第1・第4軍団がブリュンとリヴォフに侵入したが、2回にわたるリヴォフの戦い(1914.8/9.)の後、優勢なロシア軍のためラヴァ・ルスカヤの戦闘を中止する。東ガリツィアの喪失。カルパティア山道の戦闘。

ドイツ第9軍団はクラクフから侵入するが、包囲の危険があるとみて撤兵してしまう。

1914.11.1. ヒンデンブルクをドイツ東部軍司令官に任命 ロシア軍の攻勢。

1914.11. ドイツ第9軍団の反攻。ルージとロヴィチの戦闘、リマノヴァでのオーストリア軍の勝利。

1915.2. マズリアの冬季戦。東プロイセンの最終的解放。

1914.12-1915.4. カルパティアの冬季戦 ハンガリー侵入のロシア軍を防ぐ。

1915.5. タルノフとゴルリツェの戦い ガリツィア、ブコヴィナを獲得。

1915.4. ドイツ軍、リトアニア、クールラントに進撃する。

1915.7.1以降 バルト海からサン川にわたる独・奥軍連合軍の攻勢 ワルシャワ占領(8月5日)、コヴノ(8月18日)、プレスト・リトフスク(8月25日)、ヴィルナ(9月18日)の占領。

1915.9. テルノポリの戦い 東ガリツィアでは戦局が膠着する。

1915.9. ロシア軍最高司令官がニコライ大公から皇帝ニコライ2世に代わる。

1916.6-8. ロシア軍の第1次ブルシフ攻勢 ヴォルギニおよびガリツィアで広大な地域を獲得。同時に大損害を蒙り、ロシア軍の士気低下が始まる。第2次攻勢(9/10月)、第3次攻勢(10-12月)、第4次攻勢、ケレンスキー攻勢も成果をあげることができない。

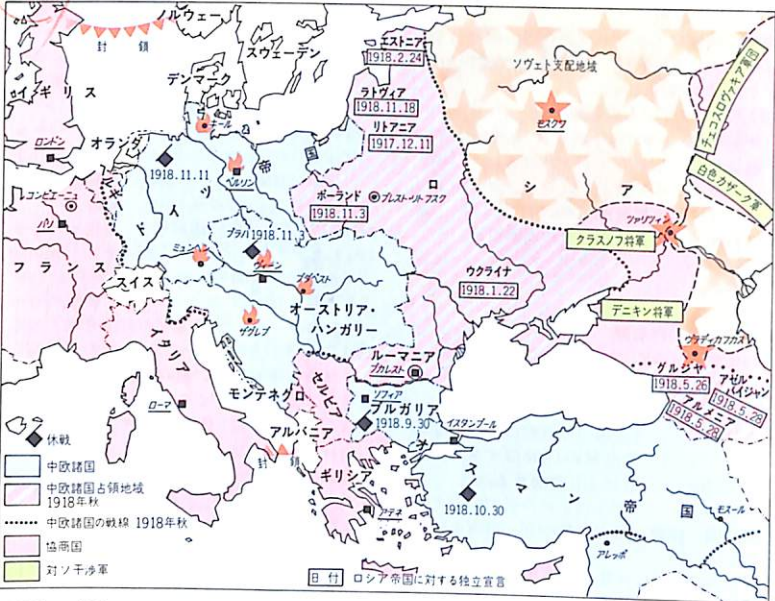
1917.7以降 独奥連合軍が反攻する。ガリツィアのほとんど全滅とブコヴィナを回復。

1917.9. ドイツ軍がリガ占領。

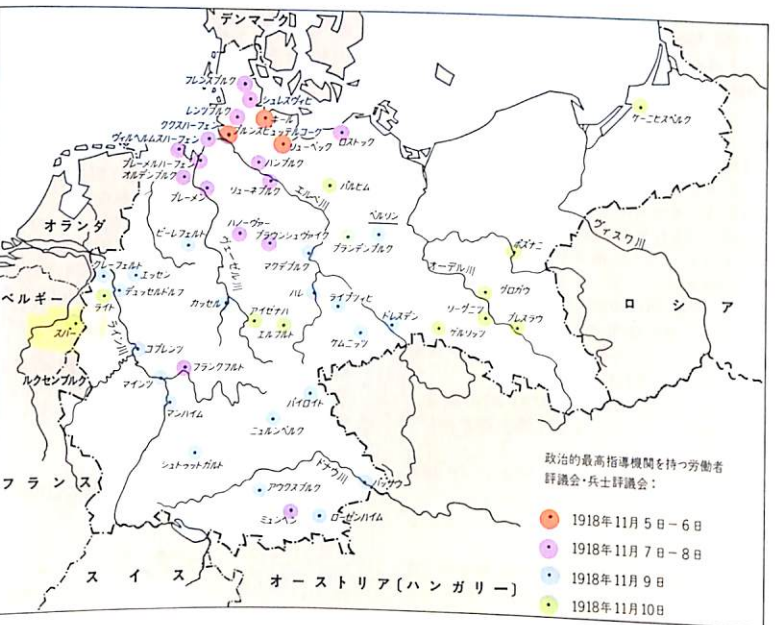
おける
 ツは陸
 無血占
 3-7
 6.10
 政務を
 の着
 .8.29
 905-5
 合政府
 連合初
 断イ
 (8.)
 とす
 ル
 をめ
 の後
 大西
 ル
 する
 法定
 ヴィ
 は捕
 ない
 ーチ
 まで
 ダ
 処
 ト
 の

マズール湖畔

アルストリトフスク



1918年の戦況



ドイツ革命

ウィルソンの平和政策

1918.1.8. アメリカ大統領ウィルソン、〈平和原則14ヵ条〉を発表。秘密外交の廃止、海洋の自由、世界経済の自由、軍縮、植民地要求の調整、中欧諸国のロシア撤退、ベルギーの再興、アルザス・ロレーヌの返還、民族原理に基づくイタリア国境の確定、ドナウ帝国諸民族の自治の発展、ルーマニア、セルビア、モンテネグロからの撤退、トルコの独立・海峡の開放、オスマン帝国下の非トルコ諸民族の自治、海への自由また安全な通路を保障されたポーランド独立国家の建設、国際連盟の創設。

1918.2.9. 〈パンの平和〉ドイツ、オーストリア・ハンガリー、トルコはウクライナと講和条約を結ぶ。ウクライナ国家の承認と、東ガリツィアにおけるウクライナの自治(見返りとして独・奥兵に穀物供与)。ロシア代表としてブレスト・リトフスクで和平交渉(1917.12.22以来)を行っていたトロツキー(→p.395)は、ドイツの条件を受諾することなく戦争状態の終了を宣言し、会議を中断(2-10)。独奥側は戦争再開によって講和を強制する。

1918.3.3. ブレスト・リトフスク条約。ロシアはリヴォニア、クールラント、リトアニア、エストニア、ポーランドを放棄、フィンランド、ウクライナを自治国家として承認。賠償金を支払う。

1918.5.7. ブカレスト条約。独奥側とルーマニアの講和。ブルガリアにドブルジャを譲渡、ドイツによる石油資源利用。

中欧諸国の崩壊

ドイツ 西部戦線での春季攻勢(1918.3-7.)は若干の陣地拡大をもたらしたが、決定的な戦線突破にはいたらなかった。

1918.7/8. F. フォッシュ(1851-1929) 総司令官の下で連合軍はマルヌ・エヌ間で反攻に出る。アマンの戦車攻撃(8月8日)でドイツ軍は(ジークフリート要塞地)に退却を余儀なくされる(8-9月)。

1918.8.14. スパーの大本営会議 最高統帥部は戦争継続を望みなしと言明。オーストリアのカール1世と外相ブリアンおよびドイツ指導層のあいだには、休戦条件に関して意見が一致しなかった。

1918.9. ヒンデンブルクとルーデンドルフは、ブルガリア崩壊後の休戦提案を希望。1918.10. マックス・フォン・バーデン大公(1867-1929)、宰相になる。

1918.10.3.4. ドイツ政府、ウィルソンに休戦提案(その基礎は「14ヵ条」)。アメリカ

の回答(1918.10.8/14/23.)は無制限潜水艦戦の中止、占領地域からの撤退、全権代表には民主主義者を要求する。

1918.10.29. ドイツ大洋艦隊の反乱(ヴィルヘルムスハーフェン)。革命的な労兵評議会組織の拡大。

1918.11.7. ミュンヘンで、同日にベルリンで革命勃発。ヴィルヘルム2世および皇太子の退位。社会民主党(SPD)のシャイデマン(1865-1939)が共和政を宣言、SPD党首F.エーベルト(→p.433)に政権をゆだねる。

1918.11.10. ヴィルヘルム2世、オランダに亡命する。ドイツに新政府樹立される(人民代表委員会。多数派SPD・独立社会民主党各3名)。同時に、〈労兵評議会執行委員会〉が設置される。

1918.11.8-11. 休戦交渉(連合国代表は総司令官フッシュ、ドイツ代表はM. エルトツベルガー(→p.394))。

1918.11.11. 休戦条約「14ヵ条」に基づく。ドイツは西方占領地域およびライン左岸から撤兵し、ブレスト・リトフスクおよびブカレスト両講和条約を廃棄する。特に重軍需品・潜水艦を引き渡し、占領地域の復旧に当たる。

オーストリア・ハンガリー ピアヴェ河口における最後の攻勢(1918.6.)の失敗とウィルソンによる講和会議拒否(9.14.)の後、ドイツの休戦提案に同意する(10.4.)

1918.10.17. カール1世、ドナウ帝国内の諸民族に連邦国家の建設を約束する。

1918.10.20. ウィルソンは、オーストリア・ハンガリー諸民族の独立要望の承認を要求。ウィーンの革命とドイツ系オーストリア国民議会の開会(1918.10.21.)によりドナウ帝国は解体する。

1918.10.28. チェコスロヴァキアの成立宣言。

1918.10.29. ユーゴスラヴィア諸民族のオーストリア・ハンガリーからの分離。

1918.11.1. ハンガリー独立政府の創設(カーロイ伯)。

1918.11.3. 休戦条約

1918.11.12. カール1世退位。

ブルガリア マケドニアにおける連合国の大攻勢の勝利(1918.9.)後、ブルガリア軍隊は解体する。

1918.9.30. 休戦協定

トルコ バレスティナ方面の戦いでヤッファの戦線が破られると、トルコ内閣はウィルソンに休戦を請う(1918.10.14/15.)。

1918.10.30. 休戦協定

平凡社

カラー世界史百科

dtv-Atlas zur Weltgeschichte

増補版

